

群 教 セ	G15 - 01
	平 29.264 集
	小 - キャリア

# 平成 29 年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 中山 拓哉

## I 研修内容

### 1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社（以下、群馬ヤクルト）は、「一人でも多くのお客様に『健康と美』をお届けすること」を企業理念とした、今年で創業 63 周年を迎える健康快適応援企業である。ヤクルトグループは、ヤクルトブランド商品を製造するメーカーのヤクルト本社と、全国各地でヤクルトブランド商品を販売する 103 の販売会社で構成されている。研修先は、一部を除く群馬県を担当エリアとし、12 年以上連続で全国 1 位の実績を収めている企業である。主な事業内容は、乳製品乳酸菌飲料・清涼飲料・健康食品・化粧品の販売、旅行業及び保険事業である。

### 2 研修先での主な研修内容

#### (1) 新入社員研修【4月～5月】（研修場所：前橋本店、各サービスセンター、店舗）

群馬ヤクルトの企業理念や使命、大切にしている価値観などを学んだ。ヤクルトの創始者である代田稔博士が提唱した三つの大切な考えについても、基礎となる部分から説明を受けた。また、商品を直接お客様にお届けする宅配サービス部、自動販売機や店舗等にお届けする直販サービス部の 2 部門の各業務に同行した。各部門が「誰かの役に立つ。誰かを幸せにする。」という社会的役割の実現に向けて、「一人一人が主役そして、チーム力の向上」をスローガンに掲げ、お客様のために何ができるかを考え、実践していることを新入社員と共に学んだ。

#### (2) 仕組み化検証活動研修【6月～7月】（研修場所：前橋本店及び各ベンディングルート）

自動販売機ルートセールス社員に同行し、既存の「作業手順書」の見直しを行った。この手順書は、「限られた時間の中で最大限のパフォーマンスを発揮し、生産性の向上を図る」ことを目的に、誰がどこの担当になっても、サービスレベルを維持し、業務を効率よく行うために作られたものである。手順書の記述が適切か、機能しているか等を検証し、改善案を提案した。

#### (3) 新入社員メンター研修【8月～3月】（研修場所：前橋本店及び各サービスセンター）

新入社員との定期的、計画的なコミュニケーションを通して、業務上の悩みや様々な心配事の相談に乗ることで不安を解消し、精神的な支援を目的として、新入社員全員の相談役であるメンターとしての役割を担った。

#### (4) 新人ヤクルトスタッフ研修【8月～3月】（研修場所：前橋本店）

毎月入社してくる新人スタッフ研修の講師を務めた。研修では、群馬ヤクルトの企業理念を念頭に、主に創始者の生い立ちや研究の歴史、健康知識、商品知識についての講義を担当した。その際商品をお届けするだけではなく、お客様の健康に役立つ情報や会話を大切にするなどの群馬ヤクルトの「大切にしている価値観」に基づき講義を行った。

### 3 キャリア教育実践

#### (1) キャリア教育資料について

群馬ヤクルトで学んだことを基に、その内容を卸売業、小売業全般に広げ、キャリア教育の充実に向けた小学校高学年向けリーフレットを作成した。企業も学校も「一人一人が主役となり自分の責任や役割を果たすこと」に加え、「知恵を出し合いながら工夫・改善し、仲間と協力して良いチームをつくること」で、役立つ喜びにつながることを示した。「小学生が今取り組んでいること全てが、社会に出ても役立つ力につながる」といった会長のメッセージなども掲載した。

## (2) 実践の概要（高崎市立東部小学校）

題材名 「より良い学級生活を送るための係活動を工夫しよう」（学級活動）

対象 第6学年1組 40名

群馬ヤクルトでは、「群馬県の健康社会の実現」に向けて、社員やスタッフ一人一人がお客様のために何ができるかを考え、自らの役割を果たしている。その上で、チームで知恵を出し合い工夫してきた結果、12年以上連続で全国1位の実績を収めている。学級においても児童一人一人が自分の役割や責任を果たすことに加え、工夫・改善することで、より良い学級生活を送れるようになり、役立つ喜びを実感することにつながると考え、本授業を実践した。本時では、学級の係活動に焦点を絞り、より良い学級にするための係活動の工夫を考えさせた。そして、各係が考え、実践すると決めた工夫・改善を記入したワークシートを掲示し、クラスで共有させた。

## II 研修成果

### 1 人材開発部での研修について

群馬ヤクルトの全ての研修を通して分かったことは、群馬ヤクルトの事業目的は「利益の追求」ではなく、「群馬県の皆様に健康と美をお届けする」ことによる「社会貢献」であった。それに付随し、相手を思いやる「利他の心」を大切にし、現状に満足することなく常に工夫・改善していることを学んだ。群馬ヤクルトの全ての取組の根底には、このような基盤があった。これらのことは、学校にも通じるものであり、これからも大切な考えとして児童、保護者、教職員に還元していきたい。

### 2 直販サービス部での研修について

労働環境の整備等の「モチベーションマネジメント」、属人的ではなく、限られた時間の中で最大限のパフォーマンスを発揮することで生産性の向上を図る「業務の仕組み化」といった、群馬ヤクルトの「業務改善」は、学校組織でも生かすことができる。

多忙化の解消に向けて働きやすい環境を自分たちで作っていくことや教育効果の向上を図れるようにするために、校内研修で話し合い、検討していくことが大切だと感じた。

### 3 キャリア教育実践（授業実践）について

学級目標の達成に向けて、児童は知恵を出し合い、自分たちの係でできる工夫・改善について考えることができた。授業実践から1か月後に行ったアンケートでは、全児童が「以前に比べ学級がより良くなった、楽しくなった。」という回答であった。また、自分たちから自発的に活動する姿や係内にとどまらず係相互に協力し合う姿が多く見られるようになった。今回の授業実践を通じて、自分やチームの役割をしっかりと果たすことに加え、工夫・改善することで役立つ喜びにつながり、より良い学級生活づくりのきっかけになったと考える。

## III まとめ

自分の役割をしっかりと果たし、チームで工夫・改善することで、自分もチームも成長し、役立つ喜びを感じる。企業も学校も「誰かの役に立つ」ということが大切だと実感することができた。学校で取り組んでいることの全てが社会に出てからも役立つ力となっていくことを十分認識し、今年度作成したリーフレットを活用しながら、小学校段階でのキャリア教育の充実に努めたい。

研修に携わっていただいた全ての皆様への感謝の気持ちを込めて、学校現場では経験できないこの一年の貴重な研修で得た知識と経験を、来年度以降キャリア教育の充実と学校組織の活性化に向けて生かしたい。

（担当指導主事 峯崎 正樹）